

環境配慮への取組について

会議の開催に当たり、会議の関係者はもちろんのこと、会議運営、海外からの参加者の招へい、展示設営、通訳、印刷、ケータリング等、さまざまな業務を請け負う事業者、また、会議の参加者にも環境配慮の徹底を呼びかけました。さまざまな方の協力を得て、会議における環境負荷の低減に取り組みました。

1. 会議開催に伴う様々な業務におけるグリーン購入の推進

COP10/MOP5 で使用する製品等の一部に間伐材を活用し、環境配慮素材を用いたカーボン・オフセット済みのコングレスバックの利用などを通じグリーン購入を推進しました。また、日本政府が直接契約する事業者に対してはグリーン購入を義務付けました。さらに、直接契約でない事業者に対しても、グリーン購入に関する情報提供を行うと共に、製品やサービスを購入する際に環境負荷が相対的に小さい物を優先的に購入するよう努めていただきました。

間伐材を活用した会議場物品

左上：国名等表示プレート 左下：ベンチ 右：議長机
(写真提供：COP10 支援実行委員会)



2. 愛知県名古屋市の基準に準拠したごみの分別をはじめとした3Rの促進

処分される廃棄物を減らすために、3R^{*1}の視点から、配布物は真に必要な部数を考慮して制作する、名古屋市の基準に準拠した11分類の廃棄物の分別を徹底するなど、処分される廃棄物の抑制に取り組みました。

*1「Reduce（リデュース）：廃棄物の発生抑制」、「Reuse（リユース）：製品の再使用」、「Recycle（リサイクル）：再資源化」

リサイクルステーションの様子



3. 会場のエネルギー管理の徹底や自然エネルギーの活用などを通じた資源・エネルギーの節約

会場のエネルギーを管理し、省エネルギーに取り組むと共に、会場の名古屋国際会議場には、今回の会議に合わせて太陽光発電設備を設置し、会場で使用する電力の一部を、環境負荷の少ない電力で供給しました。また、愛知県・名古屋市の住宅用太陽光発電から作られたグリーン電力証書により、会場で使用する電力の一部（61,000 kWh）を賄いました。

グリーン電力証書を創る愛知県の住宅用太陽光パネル
(写真提供：あいちカーボン・オフセット推進協議会)



4. 低公害車の利用や公共交通機関利用の推進

関係者や参加者の移動に伴う環境負荷を低減するため、日本政府関係者などの移動では燃料電池自動車とプラグイン・ハイブリッド車を手配するとともに、一般参加者の公共交通機関での移動を推進するために地下鉄全線で利用できる無料パスを配布しました。

5. 参加者及び関係者への事前及び会場における呼びかけ

会議の開催に当たり、会議運営、海外からの参加者の招へい、展示設営、通訳、印刷、ケータリング等、さまざまな業務を請け負う事業者にも環境配慮の徹底と、環境配慮指針の策定を呼びかけました。また、参加者に対しては前日までの廃棄物量について重量と GHG 排出量換算値を掲出し、廃棄物の抑制を促すとともに、日本の習慣になれていない海外の参加者に対して、節水、省エネ、廃棄物の分別、トイレの清潔な使い方など環境負荷を減らす方法を、簡単に呼び掛ける工夫をしました。

掲示したポスター

左：リサイクルステーションの位置を示すポスター 右：分別を呼び掛けるポスター

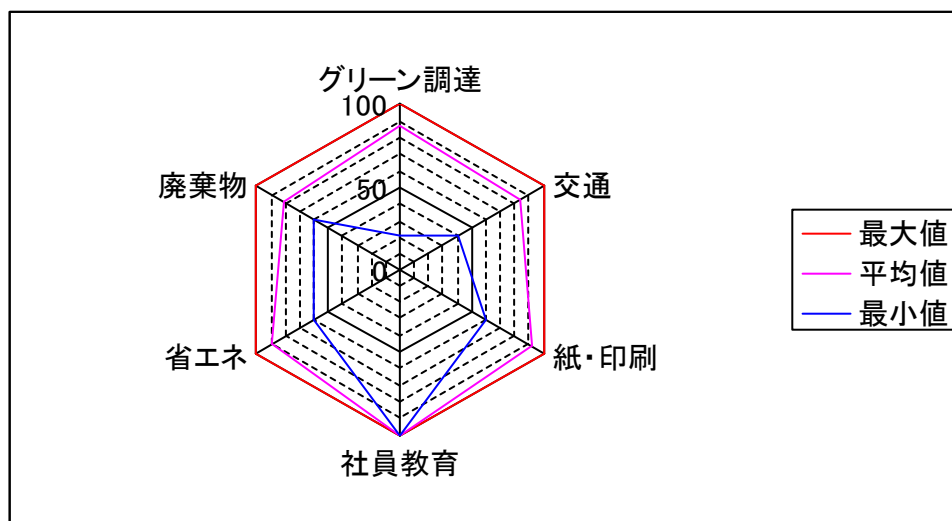


6. 環境負荷低減に取り組んだ事業者による自己評価

業務の請負事業者に環境配慮指針の策定を呼びかけるとともに、今後の業務に活かしていただくために指針と実際の行動の自己評価を実施していただきました。

自己評価結果

評価点	環境配慮指針に対する評価*2
100	完全に徹底した
80	おおむね徹底した（8割程度）
60	半数以上は徹底した（6割程度）
40	徹底したが半数には満たなかった（4割程度）
20	ほとんど実施できなかった（2割程度）
0	まったく実施できなかった



*2 会議開催前に事業者ごとに環境配慮指針を定め、自主的に策定した当該指針について、どの程度達成できたか自己評価したもの。各指針については、事業者ごとに異なるため列記することができないが、長寿命製品の採用や公共交通機関の利用推進などが一例として挙げられる。